

病虫害発生予察情報

令和2年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 9月予報

【 水稲 】

トビイロウンカ

美濃地域の予察灯で7月中旬～8月下旬に誘殺、ほ場では8月上旬の西濃地域の調査で発生が確認されています。これまで西日本を中心に21府県で注意報、警報が発表され、本県でもすでに広域で飛来している恐れがあるため、今後ハツシモなど10月以降に収穫を迎える晩生品種では発生に注意してください。発生を確認した場合、使用時期(収穫前日数)等の農薬使用基準を遵守し、薬液が株元にかかるよう散布してください。

【 大豆 】

カメムシ類

西濃地域では、予察灯によるカメムシ類の誘殺が平年より多く認められています。成虫は莢の伸長後期から子実肥大中期を最も好むことから、着莢期から子実肥大期の防除を確実に実施してください。

【 果樹 】

カメムシ類 * 病虫害発生予察注意報第6号(R2.8.5付)発表

チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数は7月下旬～8月上旬にピークとなり、それ以降も平年より多く推移しています。今後も果樹園への飛来に十分注意し、発生が認められたら防除を実施してください。

【 野菜類 】

トマト灰色かび病 * 病虫害発生予察注意報第5号(R2.7.31付)発表

7月下旬までの天候不順により、葉先枯れ部や花がら等に発生が多く認められました。今後、曇天が続くと、罹病部位から果実に感染が拡大すると予想されます。発生が確認されたほ場では直ちに対策を実施してください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期(9月)

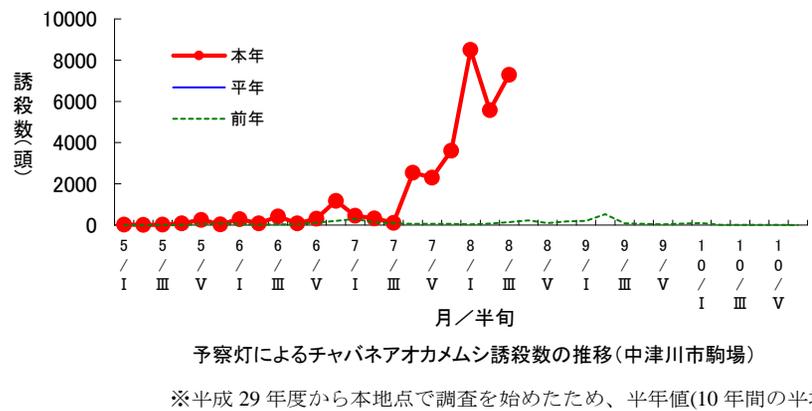
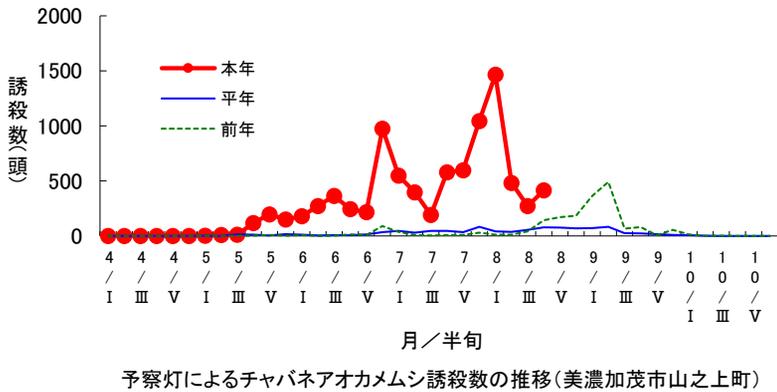
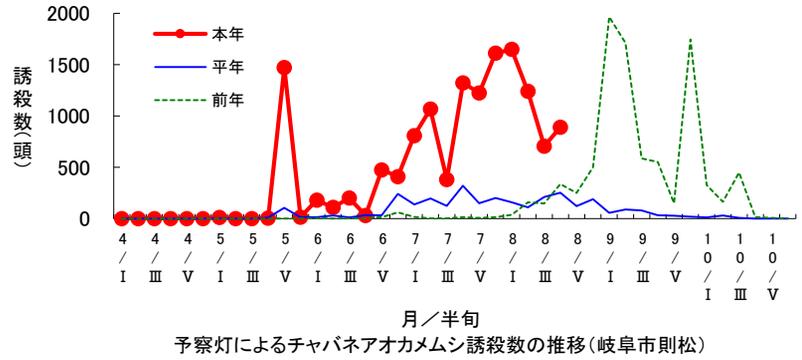
	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水稲	生育(ハツシモ)	並	<穂ぞろい>						・8/14調査(6/10田植:農業技術センター)
	穂 いもち	やや多			<発生最盛期>				・ 穂いもち 穂ばらみ期～穂ぞろい期に防除を実施する。
	トビイロウンカ	多							
	ツマグロヨコバイ	やや少		<第4世代幼虫>					・ ツマグロヨコバイ 幼虫最盛期に防除を実施する。
	斑点米カメムシ類	多	本 田 へ の 侵 入 (出 穂 以 降)						・ 斑点米カメムシ類 穂ぞろい期～乳熟期に防除を実施する。
	防 除 適 期		▲ ～ ▲ 穂いもち・斑点米カメムシ類・ツマグロヨコバイ						
大豆	生育(フクユタカ)					<着莢>			・8月第1～第2半旬は種
	カメムシ類	多	本 ぼ へ の 侵 入 (着 莢 期 以 降)						・ カメムシ類 着莢期から子実肥大期に防除する。
	ハスモンヨトウ	並	< 発 生 量 増 加 >						・ ハスモンヨトウ 白変葉を認めたら直ちに防除する。
	防 除 適 期								
かき	ハマキムシ類	やや多			<第3世代成虫>		<第4世代幼虫>		・幼虫発生初期の防除を徹底する。 ・着色始期までに防除を実施する。
	防 除 適 期								
なし	黒 星 病	やや多	< 発 生 量 増 加 >						・収穫後の秋期防除を徹底する。
	防 除 適 期		▲ 黒星病 ～						
果樹	カメムシ類	多	< 新 世 代 成 虫 >						・飛来が認められる場合は直ちに防除を実施する。
	防 除 適 期								
野菜・花き	灰色かび病	やや多	< 発 生 量 増 加 >						・同一系統薬剤の連用は避ける(薬剤耐性および抵抗性の発達)。
	ハスモンヨトウ	やや少	< 発 生 量 増 加 >						
	タバコガ類	少	< 発 生 量 増 加 >						・ 灰色かび病 花がらや葉先枯れは感染源となるため取り除く。
	アブラムシ類	並							
	コナジラミ類	多							・ アブラムシ類 苗からの持ち込みに注意する。
	アザミウマ類	少							・ ハスモンヨトウ・タバコガ類 若齢幼虫期の防除を徹

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬	
野菜・花き	防除適期								底する。 ・コナジラミ・アザミウマ類 施設栽培では虫媒性ウイルスへの感染防止のため、防虫ネット展張による侵入防止と定植時の粒剤施用を徹底する。

注1) ▲、▲～▲：防除適期
 注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域
 注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

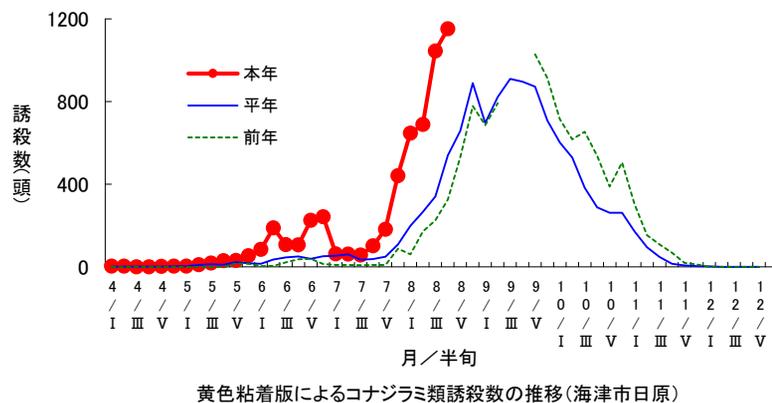
カメムシ類

チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数は、各地域とも多く推移しています。今後、新世代が発生し、山林等でスギやヒノキ毬果などのエサが不足すると、果樹園等に飛来する可能性があるため十分な注意が必要です。今後も高温傾向が予想されており、現在、被害が認められていないほ場でも飛来する可能性があるため、防除を徹底してください(表)。



コナジラミ類 (タバココナジラミ)

タバココナジラミはトマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介します。コナジラミ類の誘殺数は5月中旬から平年より多く推移し、5,533頭(5/I～8/IV半旬累計)と平年の約3倍と多くなっています(図)。今後、コナジラミ数が多い状態が続くと考えられるので、コナジラミ類の施設内への侵入防止のため、防虫ネットの展張や施設周辺の除草の他、定植時の粒剤の施用、黄色粘着テープの設置など対策を強化するとともに、ほ場における黄化葉巻病の発生に注意してください。



※ 最新情報はここからご覧いただけます。



農薬の安全使用に努めましょう！！

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 8月27日発表)

向こう1か月の天候は、気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込みです。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767